

「日本体育学会の学会名称に関する WEB 調査」結果報告

調査期間：2018年4月6日（金）～5月18日（金）

調査対象：正会員 5,316名 回答数：1,722（32.4%） 回答拒否：139 未完了：280

表1 回答者の特性

	n	%	専門領域	n	%	領域別回答率
性別						
男	1358	78.9	体育哲学	74	4.3	39.8%
女	364	21.1	体育史	84	4.9	37.7%
年齢			体育社会学	136	7.9	35.6%
20代	157	9.2	体育心理学	186	10.8	28.6%
30代	400	23.2	運動生理学	307	17.8	42.2%
40代	382	22.2	バイオメカニクス	297	17.2	36.3%
50代	491	28.5	体育経営管理	92	5.3	37.7%
60代	248	14.4	発育発達	190	11	39.4%
70以上	44	2.6	測定評価	117	6.8	41.1%
会員歴			体育方法	418	24.2	32.8%
3年未満	180	10.4	保健	84	4.9	36.2%
3～5年	181	10.5	体育科教育学	286	16.6	30.7%
6～10年	291	16.9	スポーツ人類学	42	2.4	32.1%
11～20年	356	20.7	アダプテッド	73	4.2	36.8%
21～30年	311	18.1	介護福祉	98	5.7	62.4%
31～40年	311	18.1	所属なし	116	6.7	10.6%
41～50年	75	4.4				
51年以上	17	1.0				

※ほとんどの専門領域で3割以上の回答率であり、代議員選挙の投票率(18%)と比べても、会員の関心の高さがうかがえる。

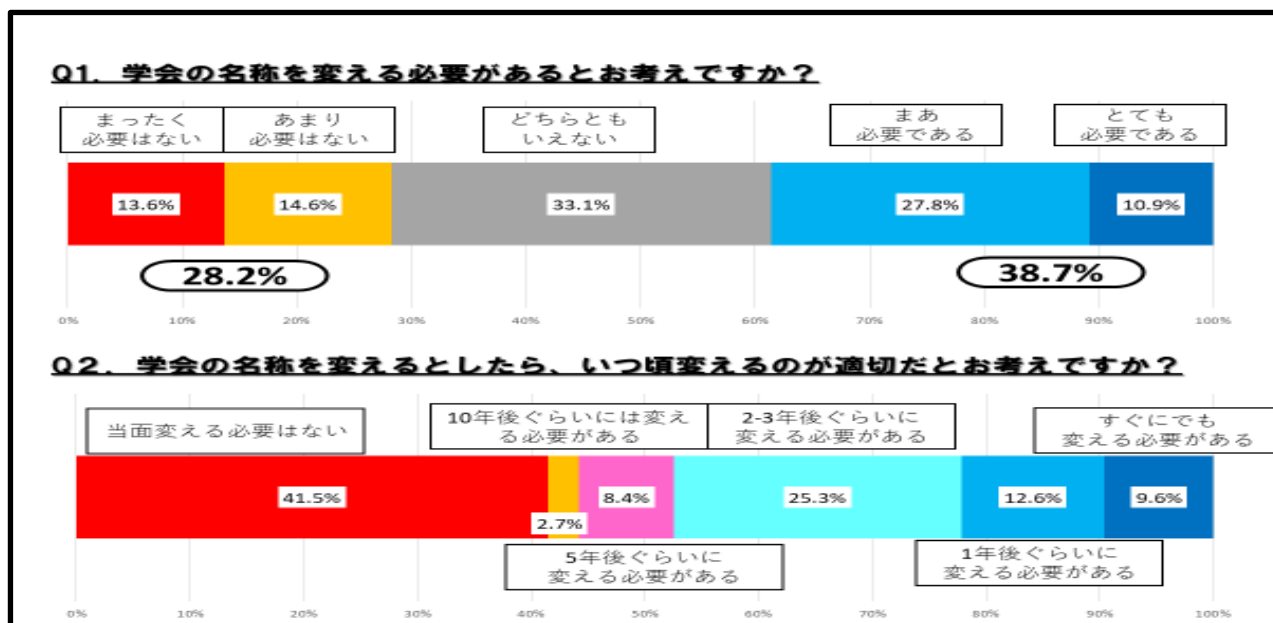
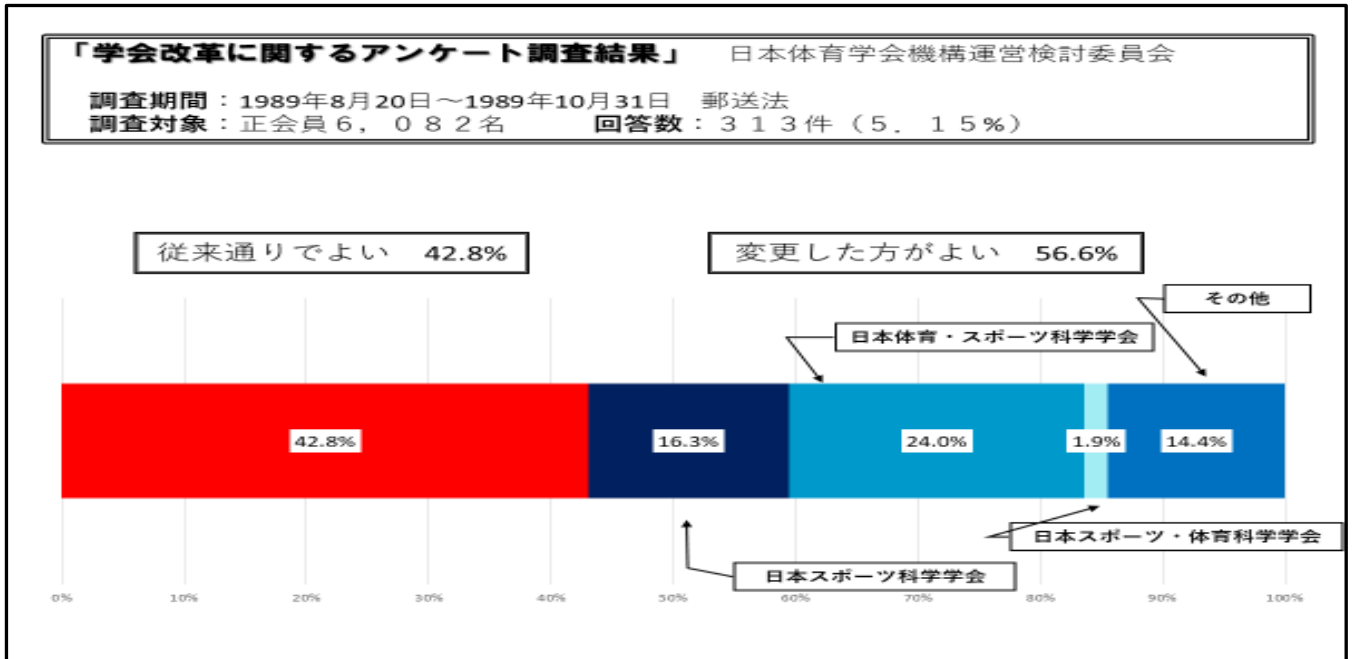


図1 名称変更の必要性と緊急性(全体傾向)

※名称変更の必要があると回答した者が4割程度であるが、「どちらともいえない」「必要なし」と回答した者も少なくない。また、名称変更の時期を質問した結果、いずれは変える必要があると考えている者が6割程度であった。

【参考1】



※1989年調査においても、学会名称を「変更した方がよい」との意見が、「従来のままでよい」との意見を上回っており、約30年後に実施した今回調査と比べてその比率にも大きな変化は見られない。

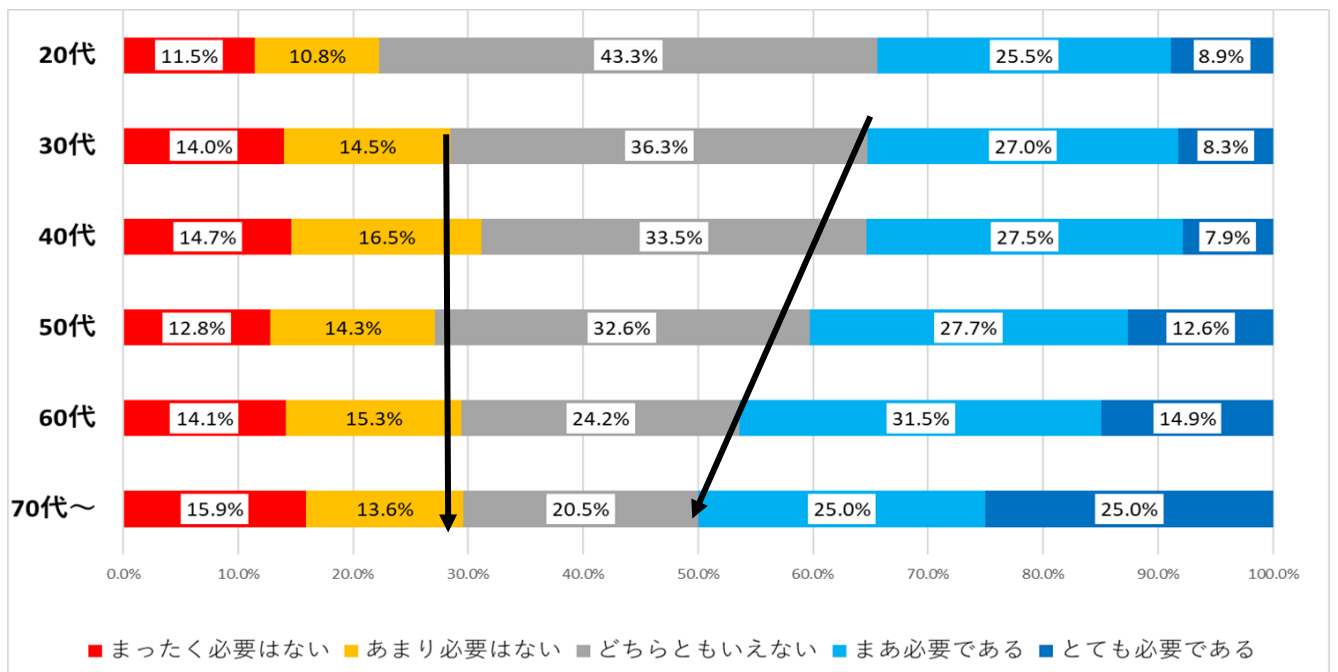


図2 年齢別に見た名称変更の必要性

※年齢が上がるにつれて「必要である」と回答する者の割合が高くなる。また、「必要はない」と回答した者の割合は、年代による差はみられない。「どちらともいえない」回答した者の割合が、若い世代に多い。

表2 専門領域別にみた名称変更の必要性

	まったく必要はない		あまり必要はない		どちらともいえない		まあ必要である		とても必要である		計
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
体育哲学	14	18.9	13	17.6	18	24.3	12	16.2	17	23.0	74
体育史	12	14.3	14	16.7	17	20.2	33	39.3	8	9.5	84
体育社会学	11	8.1	11	8.1	38	27.9	40	29.4	36	26.5	136
体育心理学	29	15.6	29	15.6	45	24.2	64	34.4	19	10.2	186
運動生理学	55	17.9	46	15.0	94	30.6	87	28.3	25	8.1	307
バイオメカニクス	44	14.8	56	18.9	99	33.3	64	21.5	34	11.4	297
体育経営管理	2	2.2	12	13.0	19	20.7	36	39.1	23	25.0	92
発育発達	24	12.6	38	20.0	62	32.6	52	27.4	14	7.4	190
測定評価	24	20.5	17	14.5	33	28.2	30	25.6	13	11.1	117
体育方法	54	12.9	54	12.9	153	36.6	110	26.3	47	11.2	418
保健	21	25.0	12	14.3	31	36.9	17	20.2	3	3.6	84
体育科教育学	32	11.2	44	15.4	114	39.9	65	22.7	31	10.8	286
スポーツ人類学	4	9.5	8	19.0	8	19.0	16	38.1	6	14.3	42
アダプテッド	7	9.6	15	20.5	25	34.2	20	27.4	6	8.2	73
介護福祉	9	9.2	12	12.2	35	35.7	30	30.6	12	12.2	98
人文社会科学系	38	7.3	75	14.4	126	24.1	165	31.6	86	16.5	522
自然科学系	156	15.5	169	16.8	323	32.0	263	26.1	98	9.7	1009
応用科学系	116	12.2	137	14.4	342	35.9	248	26.0	110	11.5	953

※「人文社会科学系」：体育哲学、体育史、体育社会学、体育心理学、スポーツ人類学

※「自然科学系」：運動生理学、バイオメカニクス、発育発達、測定評価、介護福祉

※「応用科学系」：体育経営管理、体育方法、保健、体育科教育学、アダプテッド・スポーツ科学

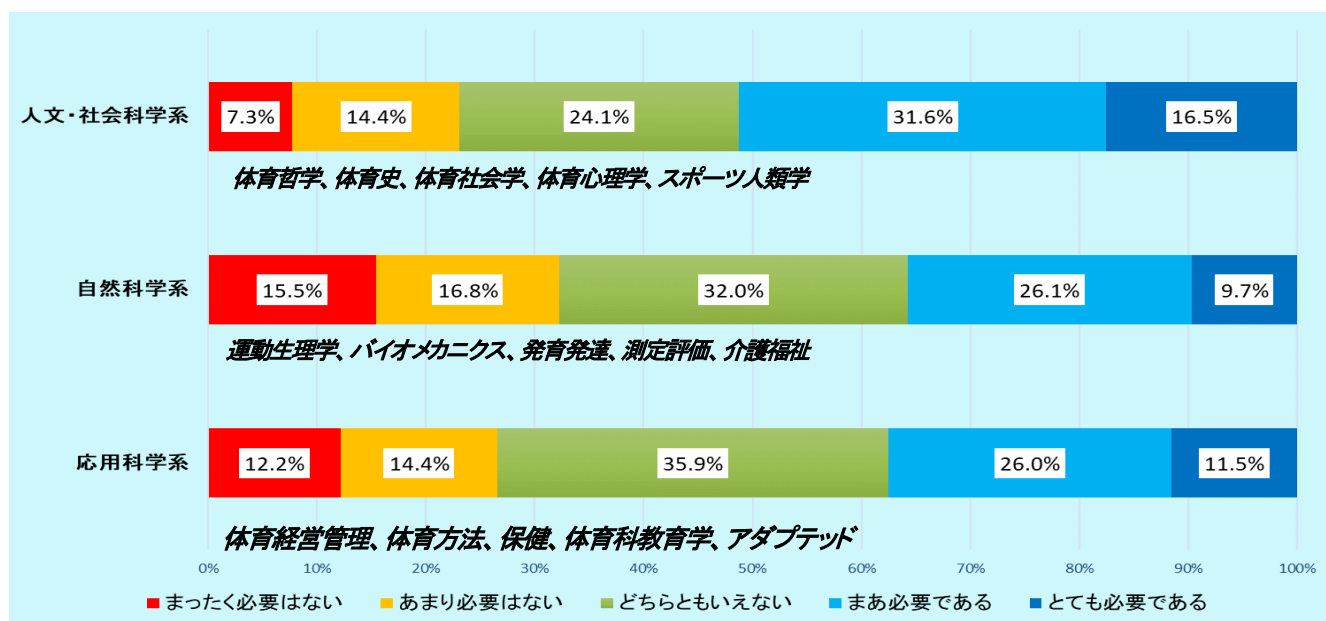


図3 分野別にみた名称変更の必要性

※専門領域別に比較すると、人文・社会科学系では、変更の必要性が高く、自然科学系では、変更の必要性が低い傾向がみられる。また、応用科学系は「どちらともいえない」との回答が他よりも多かった。

※1989年調査(参考2)では、「従来通りでよい」応用科学系に多く、「変更した方がよい」は人文社会科学系に多い。具体的な名称については、人文社会科学系は「スポーツ科学」、自然科学系および応用科学系は「体育・スポーツ科学」を支持するものが多かった。

【参考2】専門領域別にみた名称変更の必要性（1989年調査の結果）

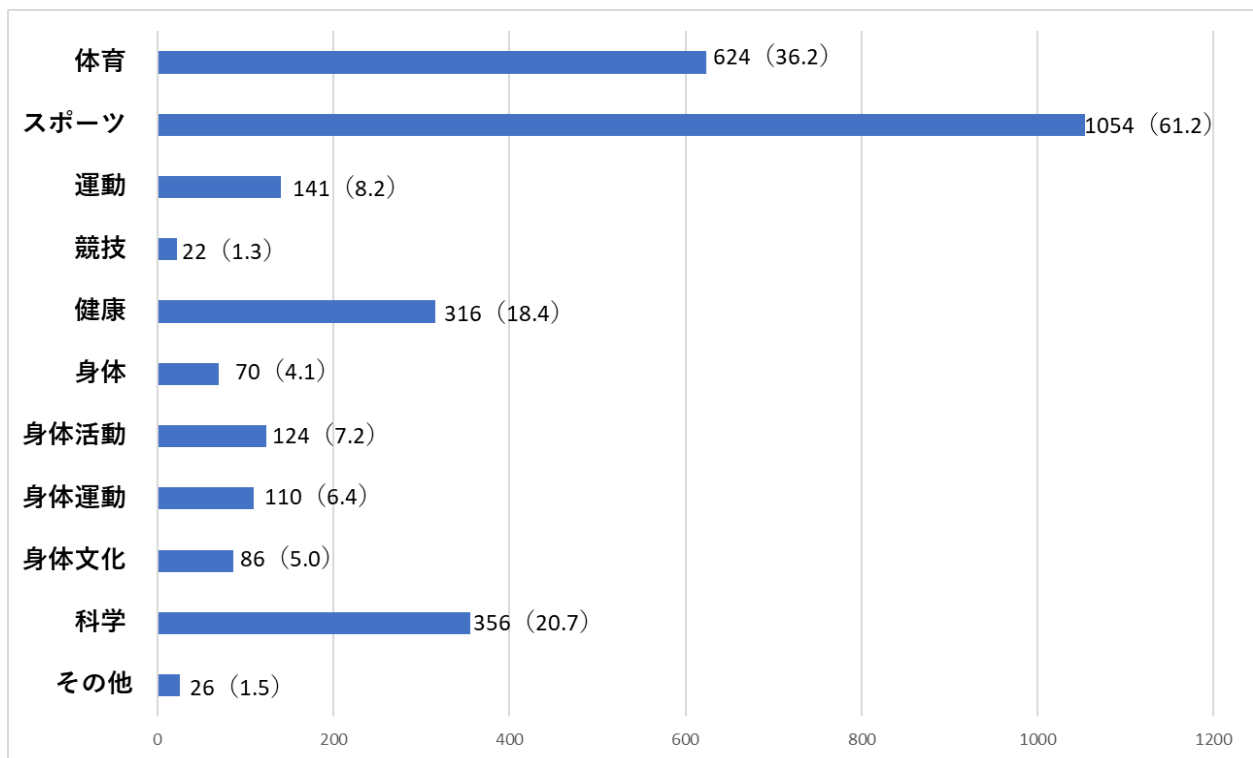
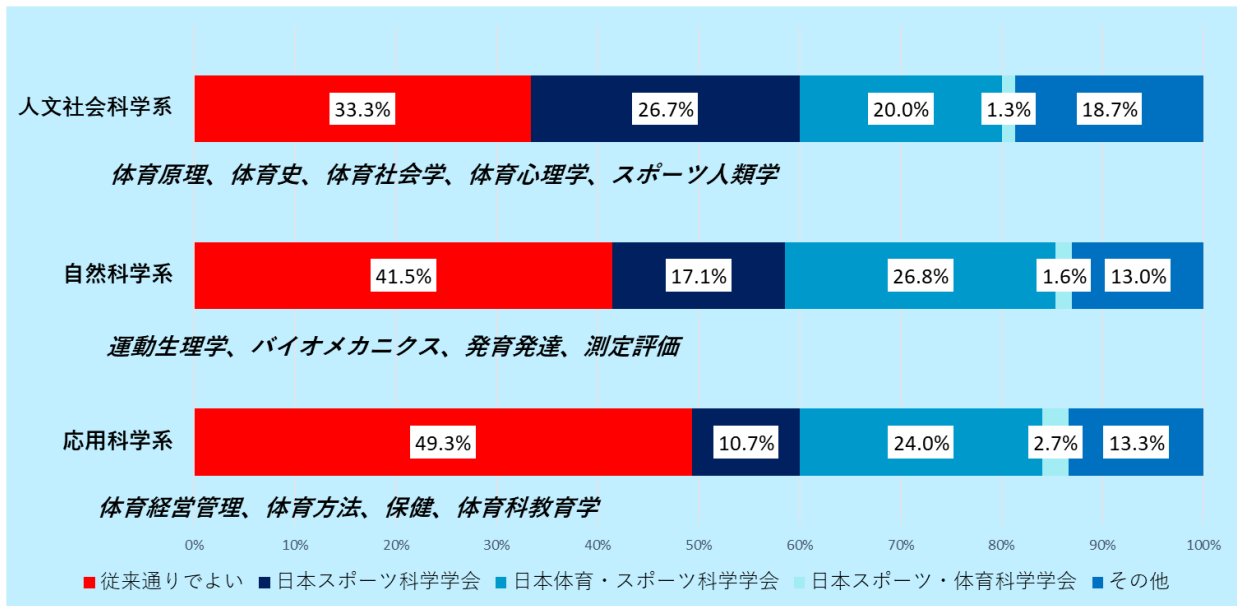


図4 学会名称に使用すべき用語(複数回答可)

※第1位「スポーツ」、第2位「体育」、第3位「科学」、第4位「健康」であった。

表 3 提案された学会名称（回答者 262 名 有効回答件数 264）

「体育」と「スポーツ」を用いた学会名	件数
日本体育・スポーツ学会	51
日本体育・スポーツ科学学会(科学会)	14
体育・スポーツ学会	8
体育・スポーツ科学会	7
日本体育スポーツ学会	7
体育・スポーツ	7
日本スポーツ・体育学会	3
日本体育スポーツ科学学会	3
その他(日本スポーツ体育科学会、スポーツ科学体育学会など)	3
小 計	103
「スポーツ」のみを用いた学会名	
日本スポーツ学会	39
日本スポーツ科学学会(科学会)	38
日本スポーツサイエンス学会	2
スポーツ学会	1
スポーツ科学会	6
その他(スポーツ学術学会など)	4
小 計	90
「健康」と「スポーツ」を用いた学会名	
日本スポーツ(・)健康(科)学会	14
日本健康スポーツ(科)学会	7
小 計	22
「体育」「スポーツ」「健康」を用いた学会名	
日本体育・スポーツ・健康(科学)学会(順変動あり)	12
「(身体)運動」を用いた学会名	
日本(身体)運動(活動)(科)学会	8
「スポーツ」と「(身体)運動」を用いた学会名	
日本スポーツ(・)身体運動学会	6

その他の名称

日本体育科学学会、日本身体文化学会等、日本遊戯・スポーツ科学会、日本スポーツ健康身体運動科学会
 体育・身体運動学会、日本健康・スポーツ教育学会、体育教育・健康科学学会、日本保健体育学会
 健康・スポーツ・運動科学学会、日本スポーツ・身体運動・健康科学会、日本健康身体文化学会
 日本健康スポーツ身体活動学会、日本体育・スポーツ・身体活動学会、日本保健体育・スポーツ関連学会連合
 日本体育・スポーツ・身体活動学会、日本体育健康科学会、日本身体文化・運動科学学会

資料 1: 学校の名称変更を必要としない主要な理由(自由記述)

(「あまり必要はない」「まったく必要はない」と回答した者 487 名中 485 名の記述)

1. 特に問題・不都合を感じない。変更の必要性を感じない。変更理由が不明確。
2. 他に適切な代替案がない。
3. 体育学会の研究内容をすべて網羅しようとするとう名称が長くなるだけ。
4. 現名称の良さ: 認知度、浸透度、愛着、わかりやすさ、適切さ、包括性(身体活動、スポーツ、健康)
5. 学会の歴史と伝統の継承、学会の権威・ブランドの保持
6. 用語「体育」の必要性(特に、教育的側面の重要性)。「スポーツ」に変えると諸々の弊害が起こる。
7. 他学会に対するオリジナリティ、差別化
8. 名称変更に起因する諸々の混乱(専門領域の大幅な再編)
9. 教科名称として「体育」が用いられているから。大学で「体育」を教育している会員が多いから。
10. 国際化への対応は、英語名称ですればよい。
11. ブームや時流に拙速に流されるべきでない。
12. 「スポーツ」は体育の手段であり、「体育」はスポーツを含むから変更の必要はない。
13. 体育(学)とスポーツ(学)はまったく違う。よって、名称を変更すると中身が大きく変わってしまう。

名称変更よりも先に……

- 学会の使命や目的、存在意義や機能・構造(研究領域の広がり)等をまずは再検討すべき
- 「体育」と「スポーツ」、「体育学」と「スポーツ科学」の概念定義と守備範囲を明確に示し、会員が共通理解をするべき(個々人が勝手な理解で議論している)

学校の名称変更に関する意見(自由記述 回答数 350 名)ー特に反対意見との対比ー

1. 学会こそ変化への迅速な対応が必要。今、取り組むべき重要な事項である。遅きに失した感がある。できるだけ早期に時代に即した対応を。
2. 日本「体育」学会という名称に少しでも違和感を感じている会員は多くいるのではないかと。
3. アンケートへの回答率から会員の関心の程度を読み取り、会員の関心を高めることにも注力いただきたい。
4. 我々の研究は、体育という範囲に収まりきれない広がりや発展を遂げているので変更すべき(体育では狭い)。ここまで多様に細分化した専門分野を「体育学」の概念でまとめることには無理がある。また社会からも狭く見られがちである。社会へのアピールを重視すると名称変更が必要である。
5. 体育という用語が教育という限定的なニュアンスを含むので、「スポーツ」等の名称に変更することはそれなりの妥当性はある。しかし、そうした名称変更は、会員の帰属意識を薄め、会員数の減少を加速させると予想される。
6. スポーツの産業化や介護予防など、幅広い分野を包括する名称を望む。
7. 「スポーツ」は、人間の運動を総称するのに適した用語であるが、専門領域の中に「体育」を研究する分野は残すべき。
8. 「体育」という用語だけでは、時代に即さない部分もあるので、用語を付け足すことが良い。
9. 研究範囲を「体育」に限定し、規模を縮小して、純粋な「体育」の専門学会として再生するのもよいのではないかと。教育を柱とする体育学会と文化性や身体運動を柱とするスポーツ科学の総合的学会を分離すべきである。
10. 英語名称と日本語名称はできる限り統一させるべき。「sport」の適切な訳語を創り出すことも学会の役割である。
11. 体育を含む「スポーツ」という用語が日本国内で一般化されるオリンピックが変更のタイミングである。

議論の進め方について

- 専門領域での議論を積み上げてほしい。
- こうした問題についての議論は、若手がイニシアティブをとる方がよい。
- 理事会の見解(具体的な代替案)を示して意見を求めるべきである。
- 性急な対応よりもじっくり時間をかけて議論を→→決めるべき時はスパッと決めるのがよい